

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回2月の「てがたん」は2月11日(土)で「冬芽の観察」がテーマです。

ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは2月4日(土)です。よろしくお願いたします。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→漁協前
- 観察日時/天気 2012年1月14日(土) 10:00~12:00 / 晴れ
- 参加者 35名
- 市民スタッフ 13名 (伊藤茂子、岡廣志、蒲田知子、木村稔、玄地昭八、須貝基康、染谷迪夫、弘寛さと子、古川克彌、松村定雄、水上香苗、保田行弘、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 2名 (斎藤安行、村松和行)

観察記録 - 1月に観察した生き物リスト-

【鳥類】

カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ、コサギ/カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ミコアイサ/クイナ科：バン、オオバン/シギ科：タシギ/カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ/ハト科：キジバト/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/モズ科：モズ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ツグミ科：シロハラ/ウグイス科：ウグイス/シジュウカラ科：シジュウカラ/メジロ科：メジロ/ホオジロ科：オオジュリン/アトリ科：カワラヒワ/ハタオリドリ科：スズメ/ムクドリ科：ムクドリ/カラス科：ハシブトガラス/外来種や家禽：コバクチョウ、ドバト

【昆虫・クモ】

甲虫の仲間：ナミテントウ/ハチの仲間：ニホンミツバチ(巣)/チョウの仲間：ムラサキシジミ

【花】

キク科：ノボロギク、セイヨウタンポポ、ノゲシ/シソ科：ホトケノザ/アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ/ツバキ科：ツバキ(植栽)、ヤブツバキ、サザンカ(植栽)

【実】

ヤブコウジ科：マンリョウ/センリョウ科：センリョウ/ウルシ科：ハゼ/マタタビ科：キウイフルーツ(植栽)/アケビ科：ムベ(植栽)/バラ科：トキワサンザシ(植栽)/モクセイ科：トウネズミモチ、イボタノキ/クスノキ科：シロダモ、クスノキ/ツバキ科：ヒサカキ

1月の観察アルバム



今回のがたんのテーマは「冬鳥観察」でした。手賀沼で見られた冬鳥はカンムリカイツブリ、コガモ、マガモ、オナガガモ、ミコアイサ、ユリカモメ、セグロカモメの7種でした。ヨシ原でオオジュリン、水田ではタシギ、斜面林ではシロハラの声が聞こえました。合計10種の冬鳥と23種の留鳥が観察されました（家禽や飼い鳥を含む）。



今月の案内人 木村 稔さん



① ウメの冬芽が膨らんでいます



② 温度があがると開花するオオイヌノフグリの花



③ 水田の畦で見つけたタシギ



④ サクラにとまるモズのオス



⑤ 冬眠中のはずのニホントカゲが遊歩道で死んでいました



ナガミヒナゲシのロゼット

大きく波うつようなギザギザの葉が特徴で他のロゼットとすぐに見分けがつけます。



1月てがたんの観察生物とルート



オランダミミナグサの幼苗

日当たりがいい土や畦では春の花のロゼットや幼苗がありました。オランダミミナグサの幼苗は毛がたくさん生えているのが特徴。



⑩ 市民スタッフの岡さんのドブガイとタナゴの解説



⑨ 手賀沼上空を飛ぶユリカモメ



⑧ カモたちは首を後ろに曲げて休みます



⑦ 親水広場近くではオオバンとオナガガモが多く見られました



⑥ 手賀沼で冬鳥探し

今月の鳥 カンムリカイツブリ (カイツブリ目カイツブリ科)

全長：41～61cm

日本では主に冬鳥として全国に飛来し、青森県や琵琶湖では繁殖する個体もいます。近年、手賀沼で増えている鳥のひとつで、博物館の毎月一回の水鳥調査では1995年12月は4羽だったのが2010年12月に調査した時には61羽に増えています。

また全国的に繁殖数も増加しており、今後の手賀沼での個体数の変化と繁殖の有無が注目されます。



冬羽



夏羽

春になって渡りの時期が近づくとも手賀沼でも夏羽のカンムリカイツブリ目をするようになります。



カンムリカイツブリの分布図

分布図の色 留鳥 夏鳥 冬鳥